

# NEWS RELEASE

生産能力を倍増、シンチレータなどを集約し、開発強化と生産拡大に向け  
北京浜松 廊坊工場新2棟完成  
竣工式は1月11日

2014年1月8日  
**浜松ホトニクス株式会社**  
本社：浜松市中区砂山町 325-6  
代表取締役社長：晝馬 明(ひるま あきら)

当社の中華人民共和国（以下中国）における製造販売子会社 北京浜松光子技術股份有限公司（北京市豊台区、当社94%出資、以下北京浜松）は、主力拠点である廊坊工場（河北省廊坊市）に、開発強化と生産拡大に向けて、新棟を建設していましたが、この度完成し2月から稼動を開始する予定です。

新2棟には、永清工場（廊坊市永清県）にあるシンチレータとガラス加工を集約し、手狭になった第1棟から光電子増倍管以外の製品を移管します。これにより、第1棟を光電子増倍管の専用棟とすると共に、永清工場ではガラス溶解などの専用工場として設備を導入し、両工場共に生産能力を倍増します。

竣工式は1月11日に執り行います。

\*シンチレータ：放射線が入射すると減衰時間の短い蛍光を発生する結晶で、検出器の受光面に貼り付け、放射線像を可視像に変換します。



北京浜松は、中国からの技術支援の要請を受けて、1988年に北京核儀器廠と合併で北京浜松を設立したもので、現在では光電子増倍管などの製造販売拠点として、2012年12月期で年間約2.4億元（約40.8億円：以下1元17円換算、内輸出約51%）を売り上げています。一方で、2011年7月に設立した中国における販売子会社「浜松光子学商貿（中国）有限公司」の2012年12月期売上高約2.5億元（約42億円）と、当社からの直接貿易も合わせて、中国国内向け2013年9月期連結ベース売上高が約84億円と拡大傾向にあります。この背景には、この数年で欧米の顧客が中国に生産拠点を置くとともに、中国国内の需要に合わせた低価格製品の開発拠点も置き始めていることと、中国企業も育ち始めていることがあります。



新2棟は、第1棟（12,243 m<sup>2</sup>）に比べ一回り大きい床面積（15,000 m<sup>2</sup>）で、開発強化と手狭になっている生産に対応して建設しました。

現在、永清工場（敷地面積約2万m<sup>2</sup>、総床面積6,200 m<sup>2</sup>）で生産しているシンチレータと

ガラス加工を新2棟に移管し、永清工場は、ガラス溶解とプラスチックシンチレータの専用工場とします。永清工場では今後、電気炉を使用したガラス溶解技術を導入して、CTなどのX線管のガラス製品の外販を増やす計画を立てています。

また、第1棟で生産しているフォトンカウンティング装置、環境計測機器、2012年4月から始めたシステム事業部の画像計測装置と、技術部を新2棟に移管します。第1棟の空いたスペースには、手狭になった光電子増倍管の生産拡大に対応し専用棟とします。

新棟建設により、売上高5億元（85億円）規模に相当する生産能力の拡大が可能となり、両工場の生産能力が2倍に増強します。

竣工式などの詳細につきましては以下の通りです。

#### <竣工式>

式典名称：廊坊工場 新2棟 竣工式

日時：2014年1月11日（土）午前9時30分～

場所：中華人民共和国廊坊市廊坊経済技術開発区一号路東 廊坊工場内

#### <新棟概要>

建物名称：廊坊工場 新2棟

建築場所：中華人民共和国廊坊市廊坊経済技術開発区一号路東 廊坊工場内

建築工期：2012年3月着工 2014年1月竣工

生産開始：2014年2月

建築構造：鉄筋コンクリート構造地下1階、5階建

建物面積：建築面積3,000m<sup>2</sup>、総床面積15,000m<sup>2</sup>

施設構成：B1F 電源動力室

1F：3,000 m<sup>2</sup>（業務部、品質管理、製品倉庫、応接室、販売子会社 HPC 事務所）

2F：3,000m<sup>2</sup>（シンチレータ製造）

3F：3,000m<sup>2</sup>（環境計測機器・画像計測装置製造、新製品試作開発）

4F：3,000m<sup>2</sup>（将来の増産対応、会議室）

5F：3,000m<sup>2</sup>（ガラス加工）

総工費：6,000 万元（10 億 2,000 万円）

収容人員：約 270 名

生産品目：シンチレータ、ガラス加工、環境計測機器、画像計測装置

生産能力：5 億元（85 億円）

#### <当社の中国ビジネスについて>

1978年に中国核工業省原子力工業公司から、中国の科学技術の近代化に向けて光の領域で先端技術の研究・生産拠点をつくりたいという要請を受け、技術協力のための交流を始めました。その後、88年3月に北京核儀器廠（核工業省原子力工業公司の工場）と合弁で

北京市海澱区に北京浜松を設立（当初当社 50%出資、現在当社 94%出資）し、中国の光技術の発展に寄与すると共に、新しい光技術の開発を目指してきました。2004年には先進技術企業として格付けされ、輸出額と利益率が全国レベルで優良な双優三資企業に選ばれています。

また当社は、北京浜松設立の翌 89 年 1 月に、中国科学院があり科学技術関係の官公庁が集まる地域に、北京事務所を開設し行政中心の活動をしてきました。また、01 年 6 月には商工業が盛んな華東地区での事業展開を図るべく、市場調査、情報収集、事業戦略の策定を目的として、上海市のビジネスの中心地にある港泰広場に当社の上海事務所を開設しています。

製造販売子会社の北京浜松では設立後、中国国産の光電子増倍管と医療機器や石油探査用シンチプローブに加え、当社から技術供与のために分析用光電子増倍管の生産を開始しました。その後、94年にはガンマカメラ用光電子増倍管、96年に分析用光電管、高圧電源、放射線計測用光電子増倍管、00年からは部品から装置ビジネスにも進出し、放射線画像診断機器の SPECT（単光子放射断層撮影装置）とガンマカメラ、化学発光水質検査装置の生産を始めています。

01年に米国子会社浜松コーポレーションが生産していた汎用光電子増倍管を移管しています。03年には廊坊市永清県に、北京浜松で生産する電子管用のガラスと放射線計測用シンチレータを生産する工場（敷地面積約 2 万 m<sup>2</sup>、総床面積 6,200 m<sup>2</sup>）を建設。05年5月に手狭になった北京の工場から、北京と天津の中間に位置する新興都市の河北省廊坊市の経済技術開発区に主力工場（敷地面積約 53,000 m<sup>2</sup>、総床面積 12,243 m<sup>2</sup>）を移転し、その後 08年6月に北京市豊台区に北京浜松の本社事務所も移転しました。

さらに、10年には分析用ホロカソードランプの生産と扱い品目を増やし、設立以来、売上高と利益はほぼ 2 桁成長を遂げてきました。当初は、ほとんどが浜松ホトニクスへの輸出でしたが、中国国内でも需要が高まり、現在の生産品目の大半が医療機器用の光電子増倍管になっています。

また、11年7月に中国における内需拡大に対応するため、売上拡大と技術サービスの充実を目的として販売子会社「浜松光子学商貿（中国）有限公司」（当社全額出資）を設立しました。

### <廊坊工場概要>

1992年に開区された開発区。機械、電子、食品、新材料、紡績、教育などの産業を形成している。民間用に整備された土地の最大区画約 5.3 万 m<sup>2</sup>を 50年の期間で借地権を購入。

土地面積：約 53,000 m<sup>2</sup>

建築場所：中華人民共和国廊坊市廊坊経済技術開発区一号路東

建築工期：2004年3月着工 04年12月竣工

稼動開始：2005年5月

建築構造：鉄筋コンクリート構造 3階建

建物面積：建築面積 4,401 m<sup>2</sup>、総床面積 12,243 m<sup>2</sup>

新 2 棟移管後の施設構成：

1F：4,401 m<sup>2</sup>（営業、総務、財務、食堂、展示・会議室等）

2F：4,276 m<sup>2</sup>（多目的ホール、光電子増倍管製造）

3F：3,424 m<sup>2</sup>（光電子増倍管・ホロカソードランプの製造、応用技術、研修室等）

総工費：約 7,500 万元（約 10 億円）

設備費：約400万円（約5,000万円）

収容人員：約500名

新2棟移管前の生産品目：

理化学分析に使われる分光光度計をはじめ、石油探査機器、放射線医療、画像診断機器ガンマカメラなどの用途の光電子増倍管、光電子増倍管関連部品、アセンブリー部品、高圧電源（2012年売上比率60%）

放射線受光用シンチレータ（15%）

各種用途向け検出器ヘッド（10%）

電子部品用ガラス材料及び製品（8%）

医療用放射線撮影装置（ガンマカメラ、SPECT）（3%）

その他（環境計測機器、フォトンカウンティング装置、化学発光イムノクロマト装置、ATP計測精密分析装置、生物化学分析装置、放射線検出計量装置、分析用ホロカソードランプ）（4%）



廊坊工場 新2棟外観

報道関係者には、写真をデータで提供しますので、下記までお申し付けください。

**この件に関するお問い合わせ先**

報道関係の方 浜松ホトニクス株式会社 広報室 海野賢二

〒430-8587 浜松市中区砂山町 325-6 日本生命浜松駅前ビル

TEL053-452-2141 FAX053-456-7888 E-mail:k-unno@hq.hpk.co.jp

時間外は、携帯電話 090-4080-3501 へお願いします